

# 民主党の 三大献金疑惑を許すな。

## 鳩山総理の偽装献金疑惑

鳩山総理は、12億円超ものお金を母親から譲り受けながら、「知らなかった」の一言で逃げ切ろうとしています。こんな言い訳はとて信じられませんが、総理自身も贈与の事実は認め、約6億円もの税金を後納しています。これは、過去に脱税があったことを自ら認めたことに他なりません。総理大臣に脱税行為があったことは許されるものではなく、一国のリーダーたる者がこんな状況では、確定申告のこの時期、決して納税者の理解は得られません。鳩山総理は、一刻も早く明確な説明を行い、“平成の脱税王”の汚名を返上すべきです。一方、鳩山総理は予算委員会で、この件に関して「母に尋ねていただいても結構だ」と答弁しています。しかし、総理ご本人が何も説明せず、老いた母親に聞いてくれというのは極めて無責任。党首討論で谷垣総裁が改めて質問しても、「母に聞いてもらえばわかる」、「弁護士を通して」と、自ら語ることを拒否し続けています。そうであるならば、鳩山安子氏に話を聞くしかありません。わが党としては、参考人招致を強く求めていく方針です。

## 小沢幹事長の不動産資金疑惑

小沢幹事長の起訴は見送られましたが、現職国会議員を含む元秘書が3人も起訴されており、小沢幹事長の政治責任、監督責任は極めて重いものがあります。事実、世論調査（読売新聞）でも「幹事長を辞任すべきは74%」との結果が出ています。それにもかかわらず、あれほど検察批判を繰り返していた小沢幹事長が、不起訴となったとたんに検察は「公平公正」だと言い出したのには驚きです。

## 北海道教組の裏資金疑惑

民主党の小林千代美衆議院議員側が、日教組の下部組織である北海道教職員組合側から約1,600万円の資金提供を受けていた事実が発覚しました。かつて山梨県教職員組合の組合員が輿石参議院議員の政治資金のカンパを募っていた事件もありました。今回の事件で、民主党の「政治とカネ」の問題は幹部だけの問題だけでないことが判明。同時に、改めて民主党と労働組合との癒着の強固さが明確になりました。